

2021年3月5日
住友生命保険相互会社

「健康経営優良法人 2021～ホワイト500～」に認定

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 橋本 雅博、以下「住友生命」）は、経済産業省および日本健康会議が主催する「健康経営優良法人2021（大規模法人部門）～ホワイト500～」に4年連続で認定されました。

住友生命では、2017年4月に策定した「住友生命グループ健康経営宣言」のもと、一人ひとりが主体的に健康維持・増進に取り組むことができる「いきいきと働き続けられる会社」を実現するため、「CSVプロジェクト」の柱の一つでもある職員とその家族が健康になる「健康経営」を前進・拡大・進化させていきます。

※健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取組みや日本健康会議が進める健康増進の取組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。大規模法人部門の中で、健康経営度調査結果の上位500法人が「ホワイト500」として認定されます。

1. 住友生命の健康経営への取組み

a. 主な取組事項

健康管理	定期健康診断および2次健診の受診率向上と事後措置（特定保健指導、生活習慣改善指導等）の実施、家族の健康診断受診率の向上、電話健康相談の活用促進
健康リスクの軽減	働き方変革による労働時間の削減、禁煙の推進
健康維持・増進活動の奨励	スニーカー通勤の推奨、ICTサービスを活用した家族を含めたウォーキングキャンペーンの実施、「日本健康マスター検定」「メンタルヘルス・マネジメント検定試験」の受験勧奨、健康イベントへの参加

b. 具体的な取組み事例

スニーカー通勤の推奨

最も身近な軽運動の一つであるウォーキングの推進を日常的に図っていくために、スポーツ庁も推奨するスニーカー等を使用した通勤を推奨しています。

業務時間中の使用も可能としており、オフィス内でもスニーカーを履いた職員が増え、健康に対する意識も高まっています。



（写真は2018年撮影）

健康保険組合とのコラボヘルスによるウォーキングイベント「みんなで歩活」

健康保険組合と協力し、ICT サービスを活用したウォーキングイベントを年2回実施しています。チームで歩数を競い、メンバー間でメッセージのやりとりができるなど「楽しみながら健康に」をモットーに取り組むことができ、職員の健康意識が高まるきっかけとなっています。また、この ICT サービスにより、職員一人ひとりの趣向に合わせた健康情報の提供を行い、健康に対する「意識」と「行動」を向上させるサポートを行っています。



(イベントチラシ)



(写真は 2018 年撮影)

職員の健康維持・増進活動の推進に向けた取組み「のる活」

職員がより健康になることを目的として、体組成計を活用した「のる活」プログラムを 2019 年 11 月から実施しています。

「のる活」は、社内で公募した 1 万人以上の参加者が、3 年間、ソフトバンク株式会社の体組成計（「スマート体組成計 2」）を活用し、株式会社ルネサンスの健康プログラム（株式会社リンクアンドコミュニケーションの健康管理アプリ「カロママプラス」）へ計測データを連動することにより、楽しみながら健康維持・増進活動に向けた習慣づくりに取り組むプログラムです。

<のる活プログラムの全体像>



以上